

令和4年度第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

日 時	令和5年2月1日（水）午後1時30分～午後3時00分	
場 所	羽島市役所301会議室	
出席者	<p>（生涯学習都市推進会議委員）出席者16人（欠席者4人）</p> <p>松井 聡 会長（市長）</p> <p>前田 京子 委員（女性団体代表）</p> <p>鈴木登司雄 委員（社会教育委員代表）</p> <p>小森 博昭 委員（スポーツ推進会議代表）</p> <p>横山 政司 委員（小中学校代表）</p> <p>後藤周太郎 委員（高等学校代表）</p> <p>近藤かよ子 委員（学識経験者）</p> <p>小林 美雪 委員（学識経験者）</p> <p>石黒 恒雄 委員（副市長）</p> <p>森 嘉長 委員（教育長）</p> <p>松原 雄一 委員（健福祉部長）</p> <p>横山 郁代 委員（健福祉部子育て担当部長）</p> <p>加藤 光彦 委員（産業振興部長）</p> <p>藤田 敦子 委員（公募委員）</p> <p>南谷 吉徳 委員（公募委員）</p> <p>小川 剛矢 委員（障がい者支援団体代表）</p> <p>（事務局）</p> <p>伊藤佳津子 市民協働部長      不破 康彦 生涯学習課専門官</p> <p>岩田 睦巳 生涯学習課長      牧野 充守 市民協働課長</p> <p>箕浦 勝博 スポーツ推進課長      南部 浩一 学校教育課長</p> <p>番 重宗 図書館長</p> <p>大橋 寛子 生涯学習課主幹      木山 鉄兵 生涯学習課係長</p> <p>辻 朝子 同課主任</p>	
内 容	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画の令和4年度進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき生涯学習課長より説明（資料1 p1～5、「1家庭」～「2青少年」）</li> <li>・会長の進行に基づき、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明</li> </ul>	

**【質疑応答・意見交換】**

(委員) 資料2の家庭教育学級の参加率は、目標値が現状値よりも下がっているが、理由があるのか。

(事務局) 目標値は計画当初に定めたもの。令和4年度は、コロナ禍によりオンラインで家庭教育学級に参加出来るよう、やり方を変えており、より参加しやすくなった。そのため目標値を超える結果となった。

(委員) いじめ不登校への対応で、相談先について周知を行ったということだが、実際の利用件数はどのくらいあるのか。また、その利用は保護者か、児童か。

(事務局) 令和4年度12月末までのデータで、電話相談が73件、来所が81件、こちらから伺ったのが41件。相談者でいうと、本人からは11件、ご家族からが102件、その他機関からが75件になる。電話は24時間受け付けることになっていて、学校教育課の職員が携帯を持って応じている。夜中等出られない時は、着信履歴が残っている場合は折り返し連絡をして対応している。

(委員) 相談した後どうなっていくのか周知してもらえればより相談しやすくなると思う。

(事務局) 警察や児童相談所との連携など、相談された方が安心できるような内容を付け加えることについて、今後検討していく。

(委員) オンラインで学校の授業に参加したり、フリースクールで学習したりしているお子さんもいる。学校へ来なければ不登校と定義すると、数値自体がはっきりしない。また、学校によって色々なアプローチの仕方があるが、「登校しなければだめ」という意識が蔓延しないよう、できる範囲をできる場所でやりながら復帰していくような支援をし、次の段階へ進んでほしい。

多文化共生の授業でのスリランカの方との交流や、放課後子ども教室では、子どもたちがとても楽しそうで、もっとやりたいと言っていた。地域の人力を借りて、学校ではできない経験を深めてほしい。また、勉強をしたい子どもたちには地域の取り組みがあれば紹介してもらえるよう、周知・広報活動をお願いし

たい。

(委員) 放課後子ども教室は、ここ数年でますます広がりを見せているが、実際に関わっている地域の方はどんな方か。

(事務局) スタッフという形で、教室を運営してもらう方が30名弱おられる。手を挙げてやりたいと言ってくれた方が多い。その方たちを中心に、山車保存会やスポーツ推進委員の方など、地域の団体の方に力を貸していただきながら、大体一つの学校で10回程度の教室を開催した。初めてスタッフをされた方も「本当にやらせてもらってよかった」と言われ、放課後子ども教室に関わることで、地域で自分でも何か力になれたという気持ちを味わっていただけていると思う。

(委員) 地域学校協働活動が進んで、いろいろな用語が出てきている。放課後子ども教室や家庭教育学級、コミュニティスクールなど、どういう棲み分けで連携等をしているのか説明してほしい。

(事務局) 学校運営協議会、コミュニティスクールについては、学校運営方針について、地域の委員の皆さんの承認を得る。承認と言っても、許可を得るだけでなく、一緒にやりましょうという会で、地域とともにある学校づくりを大事にしている。

地域学校協働活動というのは、これまでも地域の方から学校にたくさん支援をいただいていたが、そうした従来からあるものに、文部科学省が名前をつけてくれたという捉え方である。地域学校協働活動を担うための地域側の組織として、地域学校協働本部というものがあるが、羽島市の場合、学校運営協議会に所属する地域の皆さんとほぼ同じ方が担っているので、一体的に組織をつくり、地域活動が展開されている。

(委員) 現場では一体化に近い活動をされているようなので、より一層の連携やさらに効率的にできる場所が出てくると思う。将来のためにいい形で進んでほしい。家庭教育学級というのは、どこに位置することになるのか。

(事務局) PTAの活動の中で運営する家庭教育の学習の場とい

うことになる。例えば子どもに携帯をどのように使わせればいいかなどのテーマで講師を呼び、勉強会を開いている。そういった、保護者を対象とした学びの場である。

- ・引き続き、資料に基づき生涯学習課長より説明（資料1 p6～9「3地域における学び」～「4生涯スポーツ」）
- ・会長の進行に基づき、適宜、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明

**【質疑応答・意見交換】**

(委員) 今スポーツ庁が手がけている運動部活動の地域移行は、羽島市においては、令和3年度からクラブ化を進めてきた。中島中学校と桑原学園、それから羽島中学校が令和5年度に運動部活のクラブ化をする予定である。段階的に中央中学校もクラブ化し、羽島市内全ての中学校（義務教育学校含む）の部活がクラブ化するよう進めている。

もう一点、障がい者スポーツという言葉が出ているが、今ほとんどのところがパラスポーツという言い方をしている。羽島でもパラスポーツという取り扱いをしてもらえるとありがたい。

(会長) 事務局は、次回からはパラスポーツという名称で調整してほしい。

(委員) 今、子どもたちに、障がい者に対する考え方が認知されつつある。市内外の小学校で、障がい者スポーツや障がい者について考える講演をする機会が多々あるが、海津市の小学校で講演させてもらったところ、そこでいじめがなくなったという現象が起きている。人として多様であることを子どもたちに勉強してもらうことが大事だと思う。中でも障がい者は、「何もできない」ではなく、「障がい者でもこういうことができるんだ」と子どもたちが勉強して、その時の教育が、のちのち役に立つことを、皆さんにわかってもらいたい。

(会長) (文化系の部活動について) 中高連携で吹奏楽活動が出来れば良いと思うが、このことについての所見や

その他のことがあればお願いしたい。

(委員) 羽島高校も部活動を使っでの入試が一部あり、吹奏楽も区分がある。かつては竹鼻中学校から吹奏楽で入ってくれた。今はコロナ禍で難しいが、文化センターで竹鼻中学校と一緒に活動したこともある。コロナが落ち着いて、交流ができるようになればそういった活動もしていきたい。

(会長) 学校教育課長、検討をお願いしたい。

- ・引き続き、資料に基づき生涯学習課長より説明（資料1 p10～13「5文化」～「6その他支援」）
- ・会長の進行に基づき、適宜、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明

#### 【質疑応答・意見交換】

(委員) 老人クラブから退会されて行かれる方が多い。それは、人生の締めくくりに何をしたいかわからない人が多いからだと思うので、そういうことを考える機会を与えてほしい。年をとると仲間の中に入って行くのが難しい人も多いので、それをうまくまとめてもらい、興味を持っているいろいろなことをやりたい人を行政の力で援助してほしい。

(会長) 学んだり、体験したり、お手伝いをしたり様々な生涯学習の分野がある。そんな流れの中、ボランティアの方に頼ることも非常に多い。かといってボランティアばかりに頼っていても限界が生じてくる。今、内部ではボランティアのあり方について検討している。

(委員) 市政全般の話になるが、有償ボランティアを有効に活用していこうと考えている。また、学生ボランティア、特にインターンシップを積極的に行って、高校生や大学生等に市の諸仕事等を体験してもらい、できれば有能な人材をそのまま職員として採用したい。また若い世代を有償ボランティアで集めて、様々な意見を聞きながら、総合計画等に反映していきたい。

また、羽島市でもLINEやフェイスブック、YouTube等で、市政について発信しているが、なかなか普及していない。そのため、外部登用あるいはインフルエンサーを採用することで生涯学習だけでなく市政全般

の情報発信を行えるよう、もっと重点的に配慮していきたい。

(委員) この3年間のコロナの問題で、地元の活動や、今まで培ってきた地域の風習・慣習、伝統を、どう再構築したらいいかというのが、一番の悩みである。受け手が無い中、これをどう地域で取り組むか、一步でも進む政策があれば、教えてほしい。そういうことを会員の皆さん、地域の皆さんに訴え続けて、一步でも明るいまちづくりに尽くしていきたい。

(委員) (電子図書について) 学校に12月に説明に来ていただき、子どもたちが有意義に使っている。1冊に複数アクセスできるようになることを聞いて、嬉しく思う。今後も皆さんが使えるようぜひ広げてほしい。

(委員) コロナ禍で、地域や行政に関わった中で、「前向きな姿勢ではできない」という言葉をよく聞く。子どもたちの状況も大変だと思うが、シニア世代も1人で生活している方や身体が不自由な方など、この3年間で精神的に少し参ってしまった。今まで交流をしていた人でも、出かけるのが億劫で人との関わりを少なくしたいとおっしゃる方がとても多い。また、サークルに誘っても、敬遠されてしまう。規模が小さくなっていくのをとても残念に思う。

(委員) 今、非常に孤立・孤独が問題になっており、岐阜県も来年度から、その問題に対して、横に繋がりながら、助け合う組織をつくらうとしている。私も、そういう相談の電話をよくもらう。今こそ組織力、地域を見直すいい機会だと強く感じる。

(委員) 私は、区長になったときに、ふるさとづくりと独居老人の対策の二つを、課題として挙げ、ふるさとづくりとして、バーベキュー大会を行った。独居の人を、周りの者が関心を持って見守る、という意識をつくるために、普段から地域で触れ合う必要があると思ったからである。人と触れ合うということが、希薄になっている今、皆さんにも課題として取り上げてもらえれ

ばありがたい。

(委員) コロナ禍で、サークル活動をしていたところは、会員の高齢化もあって減っている。無理やり役をやっ  
て欲しいと言うと、とてもじゃないけどできない、という  
思いが、逆に助長されてしまう。今まで積み重ねて  
きたことを引き受けていかなければならない、という  
発想を止めないと、お互いにつらいと感じる。

同じことはボランティアでも言える。有償ボラン  
ティアは良い考えだと思うが、一番難しく大切なのは、  
双方がお金以外の何を求めているかという部分が一  
致することである。思いが違うことが多々出てくると  
思うが、そこをクリアできていくようになるといいと  
思う。

別の話になるが、俳句が今大変人気がある。俳句は  
個人でもできるが、1人きりになってしまうことがなく、  
近所で作品を持ち寄り、お話をするきっかけがで  
きる。そういった活動についても考えてみてほしい。

また、公民館・コミュニティセンターのように、身  
近なところで行われる活動はとりつきやすい。できる  
だけ近いところに、行ってみたいものがあるというこ  
とが大切だと思う。身近なイベントの案内はどんどん  
発信してほしい。

(委員) 生涯学習について、羽島市には熱心な方がいる。生  
涯学習は、いろいろなプログラムがあるが、ただ場所  
を提供するだけではなく、そこにいかに参加してもら  
うかを考えてシステムをつくり、発展させてほしい。

(委員) 昨年竹鼻祭を見て、竹鼻にはすごいものがあると思  
い、お囃子をやってくれた子どもたちの素晴らしさも  
感じた。小さいときから携われれば、羽島に戻ろうとい  
う子も出てくる。今年の竹鼻祭は少し前向きに検討さ  
れていると聞いているので、皆さんにも参加していただ  
いて、少しでも竹鼻祭、羽島を盛り上げていけたら  
と思う。